

(22) 以下の通り訂正いたします。

P445 共同発表者削除

誤

204) 同じ性別を持つ多子の育児期にある母親の体験プロセス — 沖縄県のトートーメー承継をめぐる —

○我如古愛花¹、下地清香²、小八重佑果³、山城 歩⁴、島田友子⁵
¹琉球大学附属病院、²浦添総合病院、³九州医療センター、⁴三菱京都病院、⁵名桜大学

【目的】

沖縄県が全国に比べて多子傾向にある背景には、沖縄の文化と性選好の関連があると考えられる。トートーメー承継とは先祖（位牌）を受け継ぐことであり、沖縄では1600年末期からトートーメー承継が習慣になっている。同じ性別を持つ多子の育児期にある母親の体験を聞くことによって沖縄での出生数と性選好の関連を明らかにしたい。

【方法】

対象：男子3人以上を出産している母親2名、女子3人以上を出産している母親2名。調査期間：H27年6－9月。方法：半構成的面接調査。現象学的分析方法を基に分析。倫理的配慮：A大学の倫理審査委員会において承認を得た。対象者へは人権の擁護と目的や方法、本研究への参加は自由意志である等を口頭と文書で説明し、同意書への署名を持って同意を得た。

【結果】

母親の思いは4つのテーマクラスターと9つのテーマに集約できた。医療者は産褥期にある母親の背景を踏まえた声掛け、援助が必要であること。その家族とも協力して母親の不安やストレスを増強させないような関わり方が大切であると示唆された。トートーメー承継では母親の思いを表現できること。その思いを受け止めることができるような環境が求められている。

【考察】

母親は子どもを妊娠・出産し「授かり出産することの嬉しさ」を感じる。流産等の体験をした時は「つらい体験から生命の不確かさと向き合う」。その経験で「生の不確かさと子どもを授かることに感謝をする」と考えられた。妊娠や出産後、心身共に不安定な時期に子どもの性別が続くことで「家族や医療者から受ける言葉から影響を受けている」。また、次の出産の際に子どもの性別を気にしている夫に対し特に重圧は感じていないことから「夫の期待を受け入れている」が「周りから受ける言葉に感情が揺れる」と考えられた。男子を継続的に出産した母親はトートーメーという沖縄の男子選好の重圧からは解放されるが、老後の生活を考えた時に「男子を続けて出産し安堵する気持ちと女子も欲しい思い」を抱いている。逆に女子を継続的に出産した母親はトートーメー承継で「女子を続けて出産し不安が募る」思いから男子を一人は産まなければいけないという思いを抱いている。そのため、沖縄の母親は「根強く続くトートーメー承継に縛られている」と考えられた。心の中では子どもの性別を選択し、ほしいと思いい「救いを求め諦めきれない」思いがあるが、経済的、または体力的な問題から「諦めて現実を受け入れている」。今後は「子どもに健康でいてほしいと願う」ことで気持ちを切り替えている。「現実を受け入れ、今後は子どもの成長を見守っていききたい」という思いが汲み取れた。

正

204) 同じ性別を持つ多子の育児期にある母親の体験プロセス — 沖縄県のトートーメー承継をめぐる —

○我如古愛花¹、下地清香²、山城 歩³、島田友子⁴
¹琉球大学附属病院、²浦添総合病院、³三菱京都病院、⁴名桜大学

【目的】

沖縄県が全国に比べて多子傾向にある背景には、沖縄の文化と性選好の関連があると考えられる。トートーメー承継とは先祖（位牌）を受け継ぐことであり、沖縄では1600年末期からトートーメー承継が習慣になっている。同じ性別を持つ多子の育児期にある母親の体験を聞くことによって沖縄での出生数と性選好の関連を明らかにしたい。

【方法】

対象：男子3人以上を出産している母親2名、女子3人以上を出産している母親2名。調査期間：H27年6－9月。方法：半構成的面接調査。現象学的分析方法を基に分析。倫理的配慮：A大学の倫理審査委員会において承認を得た。対象者へは人権の擁護と目的や方法、本研究への参加は自由意志である等を口頭と文書で説明し、同意書への署名を持って同意を得た。

【結果】

母親の思いは4つのテーマクラスターと9つのテーマに集約できた。医療者は産褥期にある母親の背景を踏まえた声掛け、援助が必要であること。その家族とも協力して母親の不安やストレスを増強させないような関わり方が大切であると示唆された。トートーメー承継では母親の思いを表現できること。その思いを受け止めることができるような環境が求められている。

【考察】

母親は子どもを妊娠・出産し「授かり出産することの嬉しさ」を感じる。流産等の体験をした時は「つらい体験から生命の不確かさと向き合う」。その経験で「生の不確かさと子どもを授かることに感謝をする」と考えられた。妊娠や出産後、心身共に不安定な時期に子どもの性別が続くことで「家族や医療者から受ける言葉から影響を受けている」。また、次の出産の際に子どもの性別を気にしている夫に対し特に重圧は感じていないことから「夫の期待を受け入れている」が「周りから受ける言葉に感情が揺れる」と考えられた。男子を継続的に出産した母親はトートーメーという沖縄の男子選好の重圧からは解放されるが、老後の生活を考えた時に「男子を続けて出産し安堵する気持ちと女子も欲しい思い」を抱いている。逆に女子を継続的に出産した母親はトートーメー承継で「女子を続けて出産し不安が募る」思いから男子を一人は産まなければいけないという思いを抱いている。そのため、沖縄の母親は「根強く続くトートーメー承継に縛られている」と考えられた。心の中では子どもの性別を選択し、ほしいと思いい「救いを求め諦めきれない」思いがあるが、経済的、または体力的な問題から「諦めて現実を受け入れている」。今後は「子どもに健康でいてほしいと願う」ことで気持ちを切り替えている。「現実を受け入れ、今後は子どもの成長を見守っていききたい」という思いが汲み取れた。